

今津干潟の保全と再生について

馬場崎 正博・小林 登茂子（福岡市環境局温暖化対策部）

1. 今津干潟の概況

今津干潟は瑞梅寺川河口に位置する約 80ha の泥質の河口干潟であり、干潟には瑞梅寺川が流入している。瑞梅寺川流域は、上流部は前原市、下流部は福岡市の 2 市にまたがり、流域面積 57.4 km²、流域人口 32,045 人で、人口密度は 558 人/km²(1996 年度)と低い。上流に流域面積 7.2 km²の瑞梅寺川ダムを有し洪水調節や沿川における灌漑用水などの補給、前原市や福岡市への水を供給している。流域の土地利用状況は田畑が多く干潟の周囲にも干拓農地が広がっている。

また、干潟は大部分が柔らかい泥質であり、砂質は中洲、干潟河口部でのみ見られる。大部分の泥質にはイトゴカイやヤマトオサガニが見られ河口部はカキ礁が広く発達している。鳥類はクロツラヘラサギをはじめガン・カモ類やシギ・チドリ類など 31 科 51 種の野鳥が観察されており、河口部の海岸がカブトガニの産卵場となっている。しかし、一方周辺には大規模開発が進んでおり、干潟の底質も悪化し、アオサの発生による悪臭など市民から環境改善を求められている。

2. 今津干潟劣化の原因と対策

今津干潟劣化の原因は、洪水、住宅・埋立、ダム、橋梁建設、生活排水、自然海岸の減少などであり、今津干潟劣化の連関として図-2 と図示できる。対策としては①瑞梅寺川河川整備計画による河床掘削・築堤、横断構造物の改築等。③新西部水処理センター新設計画による高度処理と処理水の放流がある、

3. カブトガニ産卵場の整備について

この地域は最近まで産卵場が確認されており、干潟に面した今津地区のみ住民が身近にいること、カブトガニは貴重種でシンボル性があり、近隣の学校で保全活動が継続的に行われているなど干潟再生の糸口を市民と協働で行うに好条件を備えている。平成21年度から地域の方々、福岡県、福岡市で構成される、「今津干潟保全協議会」を設立し、保全対策を行っておりその状況を報告する。

参考文献

- 1)馬場崎正博,河口洋一,朴崎燦,島谷幸宏:歴史的視点から見た干潟環境の変化と人との係わりに関する研究—福岡・今津干潟を例に—,環境システム研究論文集,Vol34,pp97-82
- 2)福岡市:今津干潟保全協議会ニュースレター平成 21 年 10 月 Vol1.2.3.4.



図-1 今津干潟の位置

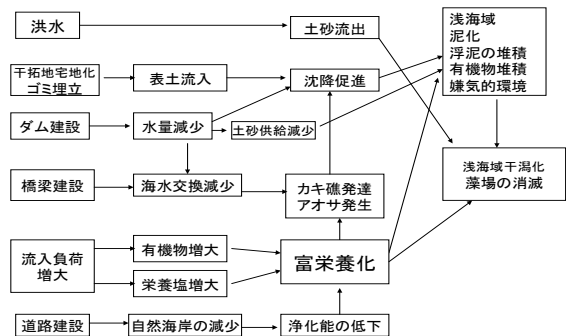


図-2 今津干潟劣化の連関